



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1977号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 プケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 諏訪部照久 幹事 千葉 慎二



広重版画より 三島 朝霧

第2040回例会

2014.9.11 曇
於:松韻

司 会

古川喜仁君

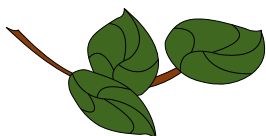
ロータリーソング

「我等の生業」
指揮 三田明宏君

会長挨拶

会長 諏訪部照久君

皆さん今晩は、今日は第二夜間例会です。今年の会長方針にはチャレンジと楽しくロータリーがあります。そこで今回は電車や徒歩で来やすい会場を選び、多少アルコールをいただきながら、懇親を深める例会の計画をしました。又、後ほど、皆さんには見学する機会がなからうと、今話題の3Dプリンターを武藤工業(株)さんに実演のお願いをしています。その様なスケジュールのため時間が押していますので、今日は簡単ですがこれで会長挨拶とさせていただきます。



出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	37/44	84.09%	40/44	90.91%
今回	39/44	88.64%	会員総数	50名

欠席者 石井(彰)君、宇田川君、大畑君、登崎君、柳田君



スマイルボックス

- ◆藤江君、本日、諏訪部会長と三島市ヘトイレットペーパーを寄付しに行ってきました。市長から皆様方に宜しく言っておいてくださいとのことでした。静岡新聞社が来ていて、明日の朝刊に掲載されるかもしれません。ご確認ください。
- ◆石井(良)君、先日の例会では盲導犬のデモンストレーションを皆様にご覧いただき、色々ご意見をちょうだいしありがとうございました。2月も盛況に出来ればと思います。そして、本日は早退します。
- ◆Eテーブル、話題が豊富で語りつくすことができませんでした。千葉さん、鈴木(郁)さん、ありがとうございました。

幹事報告

幹事 千葉慎二君

- ①本日は、夜間親睦例会(松韻)。武藤工業様のご厚意で3Dプリンターの実演。
- ②9月13日(土)は米山記念館の秋季例祭(14:00～)メークアップ扱い
- ③広島豪雨災害への義捐金のカンパを、来週18日の例会で。
- ④森崎会員が転居。住所など必要な方は幹事か事務局にお問い合わせ下さい。
- ⑤RI日本支部より『ロータリー全国囲碁大会』の案内。興味ある方は幹事まで。

2014～2015年度
国際ロータリー会長
ゲイリー・C.K.ホアン

ロータリーに輝きを

ROTARY NEWS

ガーナの村にきれいな水を

「5歳未満の子供たちの5人に一人が汚染された水を飲んで死亡している」。これが世界の現実です。しかも飲み水を汲みに行くために、毎年世界で約400億時間が費やされ、その作業は主に女性と子供たちが担っています。

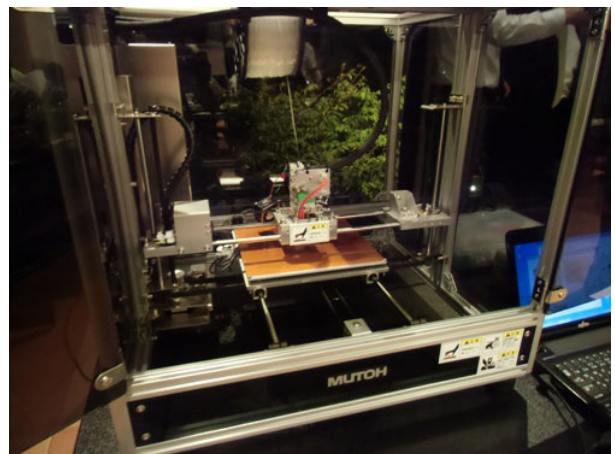
アフリカのガーナでは、人口の20パーセントに当たる約500万人が、汚染された水を使っていると推定され、その結果、多くの人びとがさまざまな病気の危険にさらされています。ロータリー会員、マーティー・ハタラさん(米国アラバマ州、ボアズ・ロータリークラブ)は、2010年に初めてガーナを訪れ、孤児院でボランティア活動に参加した時、地域の人びとがきれいな水を求めて苦勞している様子を目の当たりにしました。「場合によっては、11キロも歩いて水を汲みに行かなければならなかった」と振り返ります。

ハタラさんのこの経験について知り、ボアズ・ロータリークラブと、同じ州にあるアラバスターベラム・ロータリークラブの会員が立ち上がりました。ロータリー会員たちはガーナのボルタ地域の村、アフラオで、飲み水用の井戸を掘り、村人が長い時間をかけずに、近くできれいな水を汲めるようにしたのです。これで、村の母親と子供たちが水汲みに苦勞する必要がなくなりました。

ハタラさんはその後、地元の人に別の地域に案内してもらいました。アフラオと違い、その地域には地表に水源がありました。ロータリー会員たちは、その水源から9つの村まで送水管を敷き、市場、寄宿舍、学校、養鶏場など主要な施設で水が使えるようにしました。ハタラさんはその際、水道と下水管理の専門家、アラバスターベラム・クラブのクレイグ・ソレンセンさんの力を借り、地元の人びともこのプロジェクトの進行状態を常に知らせ、実際に参加してもらいました。当初6つの村まで敷くはずだった送水管を9つの村に延長できたのも、地域のリーダーの紹介で、地元の労働力を確保できたからです。このプロジェクトは去る3月に完了しました。

このプロジェクトに参加したクラブの会員たちは、ほかの地域でも水源を探し、もっと多くの人びとの日常を改善したいと考えています。

ソレンセンさんはこう語ります。「地域の人びとと話し合っているうちに、出水量が多い井戸から送水管を敷き、それを延長することで、最初の2つのプロジェクトと同じぐらいの資金で、遠隔地まで水を送ることができることがわかったんです。村人の生活が改善されていくのを見るのはとても満足感があります。きれいな水が利用できるようになり、これから数世代にわたって、人びとの保健、教育、収入の面でもとてもいい影響があると思います」



(週報担当:坂本和也)